Public Relations Magazine

KUMAGAYA 12

市報くまがや

2025.Dec
Vol.243

特集 | 市長就任挨拶



撮影地：星川通り

進め、明日のその先へ
KUMAGAYA

市報熊谷
2025

「新熊谷ブランドの創造」

～熊谷で暮らすことの価値を実感できるまちづくり～

熊谷市長　小林哲也

小林市長が語る 2期目の決意



生年月日：昭和34(1959)年4月5日生まれ（66歳）
家　　族：妻・母・長男・長男の妻・孫・次男・長女
趣　　味：ラーメン食べ歩き
経　　歴：熊谷市長（1期）・元埼玉県議会議長

はじめに

市民の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

私は、先般の市長選挙におきまして、無投票当選を果たし、11月6日、第6代熊谷市長に就任いたしました。

再び市政を託されたことは、私にとって何よりの光栄であり、同時に、これからの熊谷市の未来を、市民の皆様とともに築いていく重大な責任を改めて実感しております。

これまでの成果と今後への決意

前任期の4年間、私は、「新熊谷プライドの創造」を政策理念に掲げ、これまで先人たちが築き上げてきた歴史や文化、自然などの大切な地域資源を守り、いかしながら、その先の未来のまちづくりにつなげるための様々な政策の種をまいてまいりました。

特に、全国的に人口が減少し、地域活力の衰退が危惧される中、すべての世代にとって、安心して心豊かに暮らせるまちづくりに取り組んできたところです。



高齢者等の買い物支援のための移動販売事業の推進（R6.8）



東京2025デフリンピックPR（R7.9）

その上で、地域の宝である子どもたちの健やかな成長や子育て世代への積極的な支援はもとより、子どもの将来を見据えた投資となる取組を進め、未来に希望を持ち、笑顔で暮らせるまちをつくること、これこそが、私に課せられた最大の使命であると、改めて認識しております。





熊谷さくら運動公園子供広場じゃぶじゃぶ池オープン（R7.7）

「新熊谷ブランドの創造」を掲げて

これまで種をまいてきた政策の多くは、ようやく芽吹き始めたところであり、その芽を確かな実りへと育てあげなくてはなりません。

今こそ、「新熊谷ブランドの創造」を政策理念に掲げ、〝内外に誇れる熊谷〟や〝熊谷で暮らすことの価値〟が実感できるまちを目指し、これまで準備してきた諸施策を一つずつ確実にかたちにしていくことで、まちの変化や生活の変化を実感していただけるように、全力で市政運営に取り組んでまいる所存です。

変化の激しい、難しい時期だからこそ、多様なご意見を丁寧に伺い、これまで培ってきた知識と経験を最大限にいかし、国、県、近隣自治体との連携を図りながら、本市のシティプロモーションのキャッチコピー「進め、明日のその先へ」を合言葉に、市民の皆様と共に、将来を見据え、未来の熊谷のまちづくりに、誠実に、着実に取り組んでまいります。

引き続き、皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げ、就任に当たりましての挨拶といたします。

シティプロモーション
ロゴマーク

新・7つの基本政策

1 親子の笑顔が輝くまち創り

次世代を担う子どもたちの健やかな成長を支えるため、子育て世代の負担軽減、子育て施設の利便性向上により、安心して出産・子育てができる環境の充実を図ります。

また、子どもたちの学びの環境を充実させるとともに、知・徳・体のバランスの取れた学力を育みます。

■保育料完全無償化の継続
■小・中学校体育館の空調設備整備の推進
■安心・安全な学校給食の提供（新熊谷学校給食センター整備、学校給食費の保護者負担軽減） など



子育て支援・保健拠点施設
「くまキッズ」（R8.4 供用開始）



新熊谷学校給食センター（R10.9 供用開始）

2 安心・安全なまち創り

関係機関と連携し、医療体制の充実を図るとともに、市民の健康寿命の延伸や健康づくりを推進します。

また、治水対策を含めた自然災害への対策の強化を図ります。

■自主防災組織などへの支援
■新星川改修の推進、利根川・荒川の堤防強化要望活動の推進 など

3 誰もが健康で活動し支え合う優しいまち創り

子どもから高齢者、障がいがある方など、すべての人に優しいまちを目指すとともに、地域において、助け合い、支え合う社会の実現を目指します。

■AIオンデマンド交通の導入
■地域包括ケアシステムの推進 など



（仮称）第２中央生涯活動センター
（R9.10 供用開始）

4 スポーツと伝統文化により人々が行き交うまち創り

プロスポーツチームなどとの連携や市民のスポーツ活動の促進を図ります。また、文化や伝統を継承し、郷土愛の醸成を図るとともに、まちの魅力として発信することで、交流人口・関係人口の拡大を目指します。

■荻野吟子（おぎのぎんこ）の知名度向上プロジェクト など


郷土の偉人・日本最初の
公許女性医師　荻野吟子

5 元気な産業が生まれ育つまち創り

農業生産基盤整備の推進や担い手の支援、地産地消とにぎわいの創出など、農業の振興を図ります。また、地域経済や起業・創業の支援、企業誘致の推進など、市内産業の活性化を図ります。さらに、農・商・工の熊谷ブランド化を支援します。

■熊谷ブランド「晴れまち」本格始動 など



（仮称）道の駅「くまがや」（R10.3 供用開始）

6 次の世代を見据えたまち創り

市民生活に必要な都市基盤を整備します。また、首都高速道路の延伸となる新大宮上尾道路に接続される熊谷渋川連絡道路の早期事業化や、利根川新橋の建設実現によるアクセス向上を図ることで、北関東エリアにおける拠点性の確立を目指します。



広域道路ネットワークのイメージ図

また、熊谷駅を核として、星川をいかしたまちなかの魅力向上や、熊谷駅南口エリアの活性化、さらに、市役所本庁舎と県の産業振興機能を併せ持った北部地域振興交流拠点の整備により、まちなかへの新たな人の流れをつくります。加えて、スマートシティの取組を推進し、市民生活の利便性向上と新たな経済活動の創出を目指します。

■熊谷駅南口周辺の再整備の促進
■新市民体育館を含めた荒川公園周辺再整備の推進
■良好な空間形成を目指す荒川かわまちづくりの推進 など



熊谷駅を核としたまちなかの取組 イメージ図

7 持続可能なまち創り

健全財政の維持、効率的な組織づくり、行政ＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）の推進など、行財政改革を着実に推進します。また、道路、橋りょう、上下水道などの生活インフラの計画的な維持管理を含む、次世代のための公共施設マネジメントを推進します。さらに、再生可能エネルギーなどの活用促進により、地球温暖化対策を推進します。

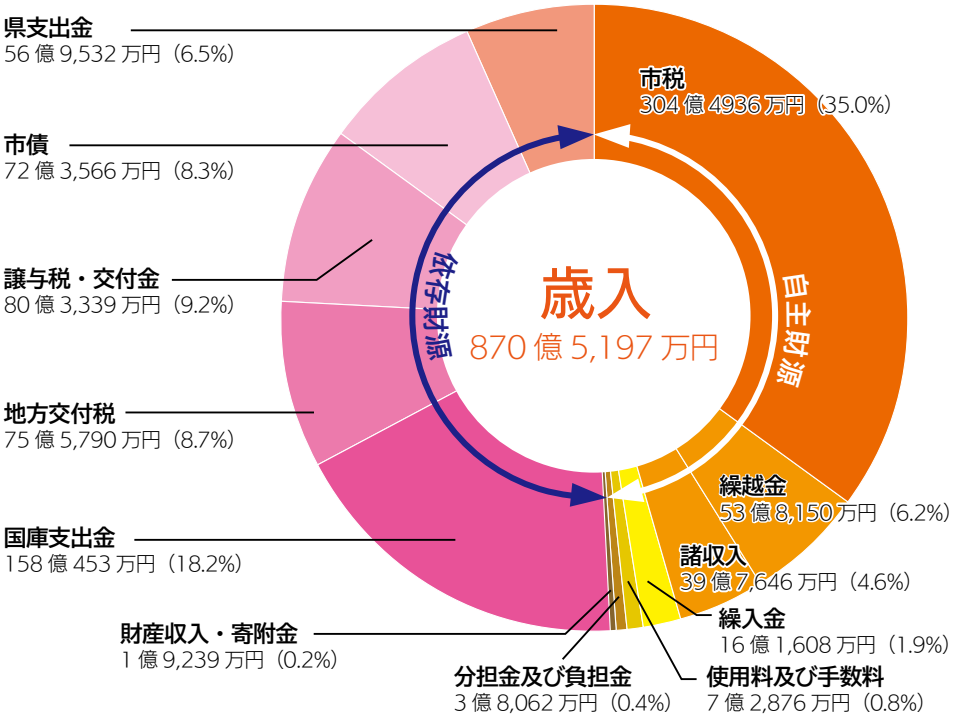
お知らせします。令和6年度決算

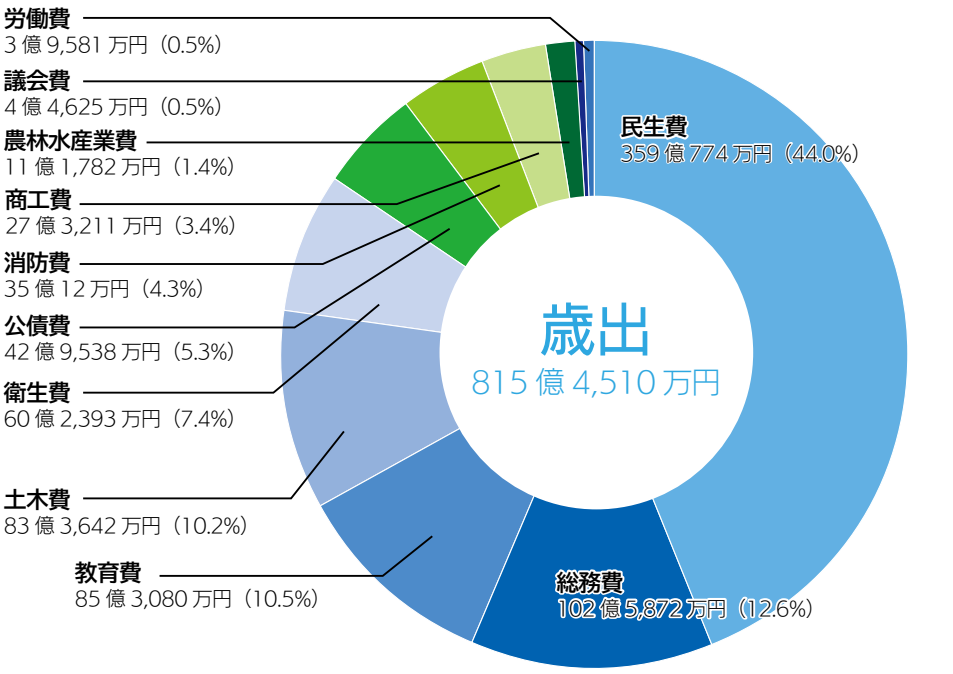
令和6年度の一般会計の決算は、前年度と比べて歳入・歳出ともに増加しました。これは、国の定額減税に伴う調整給付金に係る事業をはじめ、市民生活や地域経済に直結する物価高騰対策を重点的に実施したほか、老朽化した市有施設の更新事業の増などによるものです。

令和6年度においても、安心・安全、健康、福祉、環境、教育など市民生活に必要な事業を実施するとともに、国補助金等を有効に活用しながら、健全な財政運営を行いました。

今後も、社会経済情勢の変化に対応しつつ、引き続き予算の適正かつ効率的な執行に努め、自主財源の確保などを推進し、市民の皆様の要望にお応えするため、安定した財政基盤の構築に努めてまいります。

問 財政課 ☎内線241





一般会計の内訳

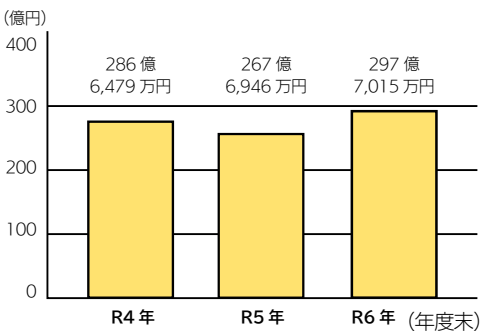
一般会計	決算期
歳　入　①	870億5,197万円
歳　出　②	815億4,510万円
歳入歳出差引額　①−②=③	55億　687万円
翌年度へ繰り越すべき財源　④	7億2,148万円
実質収支額　③−④	47億8,539万円

特別会計の内訳

会計区分	歳入決算額	歳出決算額	歳入歳出差引残高
国民健康保険	184億7,414万円	184億7,414万円	0
駐車場事業	1,839万円	1,839万円	0
土地区画整理事業	15億3,394万円	12億5,004万円	2億8,390万円
後期高齢者医療	31億2,369万円	30億8,954万円	3,415万円
合計	231億5,015万円	228億3,211万円	3億1,804万円

※各区分の金額と合計は端数を処理しているため、各区分の計と合計が一致しない場合があります。

市債残高の推移（一般会計＋特別会計）



歳出額を市民１人当たりに換算すると 42 万 8,416 円が使われました

民生費	総務費	教育費	土木費	衛生費	公債費	消防費	商工費	農林水産業費	議会費	労働費
18万8,650円	5万3,897円	4万4,818円	4万3,797円	3万1,648円	2万2,567円	1万8,389円	1万4,354円	5,873円	2,344円	2,079円

※令和７年３月 31 日現在の熊谷市の人口 190,341 人で計算

令和６年度の主なお金の使いみち　歳出（一般会計）の主な事業を紹介します

民　生　費

- 障害者自立支援給付事業　44 億 9,042 万円
- 生活保護事業　41 億 9,868 万円
- 保育所管理運営経費　30 億 5,888 万円
- 児童手当等支給事業　26 億 8,304 万円

このほか、低所得者等支援給付金給付事業、子育て支援・保健拠点施設整備事業、放課後児童保育室整備事業、要介護高齢者福祉タクシー利用料金助成事業などを執行しました。



教　育　費

- 小学校・中学校校舎大規模改造事業（繰越明許分含む）　14 億 4,933 万円
- 小学校・中学校トイレ整備事業（繰越明許分含む）　7 億 1,408 万円
- 公民館修繕等推進事業　1 億 3,389 万円
- 英語教育推進事業　1 億 3,387 万円
- 学校給食費負担軽減支援事業（繰越明許分）　9,862 万円

このほか、図書館郷土資料デジタル化推進事業、展示品レプリカ作製事業、「斎藤実盛と妻沼聖天山」マンガ制作事業などを執行しました。



総　務　費

- （仮称）第２中央生涯活動センター整備事業　1 億 3,425 万円
- スマートシティ推進事業　1 億 1,753 万円
- 戸籍等業務経費（繰越明許分含む）　1 億 2,493 万円
- 衆議院議員総選挙及び国民審査事業　6,878 万円

このほか、北部地域振興交流拠点施設（仮称）推進事業、ＭａａＳ基本計画策定事業、地域公共交通支援事業（繰越明許分含む）、コミュニティポイント普及促進事業などを執行しました。



土　木　費

- 道路維持経費（繰越明許分含む）　9 億 9,076 万円
- 池上地区「道の駅」整備事業　4 億 7,379 万円
- 道路整備事業（繰越明許分含む）　4 億 4,858 万円
- 熊谷運動公園子供広場整備事業　1 億 9,938 万円

このほか、橋りょう整備事業、秩父鉄道大麻生 No.9 踏切交通安全対策事業、新星川改修事業などを執行しました。



衛　生　費

- 予防接種事業　12 億 2,101 万円
- 健康増進事業　3 億　581 万円
- 出産・子育て応援事業　1 億 1,210 万円
- 「温暖化対策」太陽光発電等普及推進事業　2,534 万円

このほか、合併処理浄化槽維持管理費補助事業、産後ケア事業、暑さ対策スマートパッケージ事業などを執行しました。

商　工　費

- 中小企業融資あっせん事業　6 億 9,637 万円
- クマ PAY 普及促進事業（繰越明許分）　6 億 9,362 万円
- 企業誘致推進事業　2 億 6,029 万円
- 「まつりのまち熊谷」伝統行事等支援事業　7,150 万円

このほか、熊谷駅観光案内所整備事業、トラック運送事業者応援事業（繰越明許分）、まちなかウォーカブル推進事業などを執行しました。

消　防　費

- 消防本部庁舎大規模修繕事業　4 億 8,727 万円
- 高機能消防指令センター設備更新事業　2 億 3,099 万円
- 消防団運営経費　8,439 万円

農林水産業費

- 多面的機能支援事業　1 億 9,114 万円
- かんがい排水補助事業　6,451 万円
- 元気な農業支援事業　1,588 万円

健全な財政運営を行っています

～熊谷市の財政状況～

健全で持続可能な財政状況を継続するためには、市の借金である市債に過度に頼ることのない、身の丈にあった財政運営が大切です。今回は、市の財政状況の健全度を診断する健全化判断比率等をお知らせします。

問財政課　☎内線 240

健全化判断比率等とは？

財政状況が特に悪い地方自治体を早期に発見し、手遅れにならないうちに対策を促すため、「財政健全化法」によって、地方自治体は赤字や借金の状況などを示す健全化判断比率等を議会や市民の皆さんに公表するよう義務付けられています。

健全化判断比率等には、「実質赤字比率」「連結実質赤字比率」「実質公債費比率」「将来負担比率」「資金不足比率」の５つの指標があります。

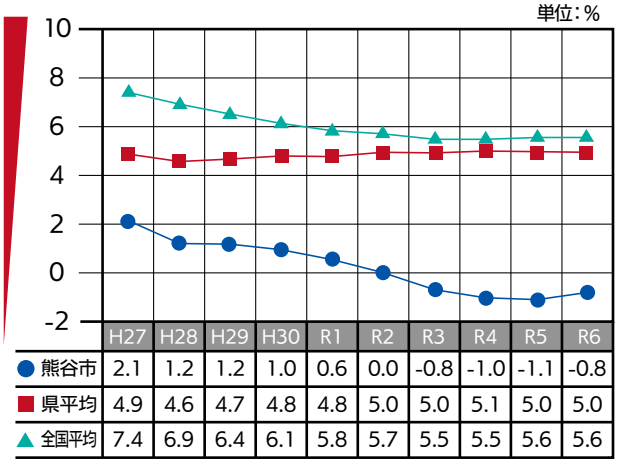
早期健全化基準・財政再生基準がそれぞれ設定され、危険度の目安とされています。市ではいずれの指標も基準を大きく下回っており、「健全段階」にあります。

実質公債費比率

市債の償還金である公債費等の負担が、市税などの経常的な歳入に対してどの程度であったかを示す指標です。この数値が大きいほど、返済の資金繰りが厳しいということになります。

実質公債費比率の推移

（この数値が大きいほど、返済の資金繰りが厳しい）



	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
● 熊谷市	2.1	1.2	1.2	1.0	0.6	0.0	-0.8	-1.0	-1.1	-0.8
■ 県平均	4.9	4.6	4.7	4.8	4.8	5.0	5.0	5.1	5.0	5.0
▲ 全国平均	7.4	6.9	6.4	6.1	5.8	5.7	5.5	5.5	5.6	5.6

※ 早期健全化基準 25.0%　財政再生基準 35.0%

※ R6 の県平均・全国平均は速報値であり、数値が変更になる場合があります。

実質赤字比率・連結実質赤字比率・資金不足比率

それぞれの対象の範囲が赤字だった場合に算定される指標です。市では、黒字（または資金不足なし）が続いているため比率は算定されていません。

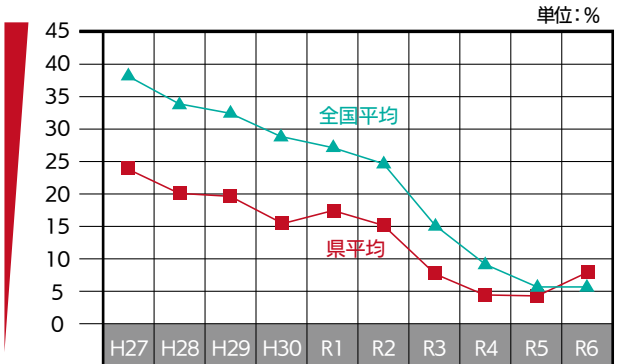
将来負担比率

市が将来負担することになる市債の残高等が、市税などの経常的な歳入に対してどの程度であるかを示す指標です。この数値が大きくなると、将来、財政を圧迫する可能性が高いということになります。

平成 27 年度～令和 6 年度は、将来負担額よりも、将来負担額に充当できる地方交付税や基金などの金額の方が大きいため、将来負担比率は算定されませんでした。

将来負担比率の推移

（この数値が大きくなると、将来、財政を圧迫する可能性が高い）



	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
● 熊谷市	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
■ 県平均	24.3	20.1	19.9	16.3	17.3	16.0	8.3	4.3	4.2	7.8
▲ 全国平均	38.9	34.5	33.7	28.9	27.4	24.9	15.4	8.8	6.3	6.3

※ 早期健全化基準 350.0%

※ R6 の県平均・全国平均は速報値であり、数値が変更になる場合があります。

現在の市の財政状況は、経費の削減や市債残高の削減等の効果により、将来世代への負担が少ない健全な状態であるといえます。しかし、少子高齢化や人口減少に伴う社会保障費の増加が見込まれるほか、公共施設の大規模改修や統廃合による施設建設などが本格化することに伴い、今後の市の財政状況は厳しくなることが予想されます。そうした状況でも、市の財政のバランスを大きく崩すことなく、市民の皆さんが安心して生活できるよう、引き続き健全な財政運営に努めていきます。

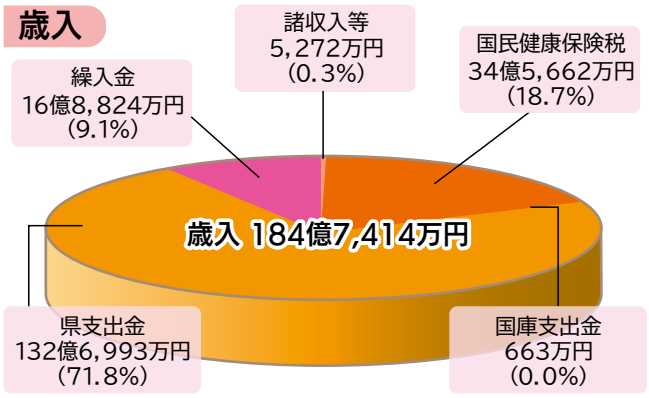
※健全化判断比率等についての詳しい内容は、市ホームページでも公表しています。

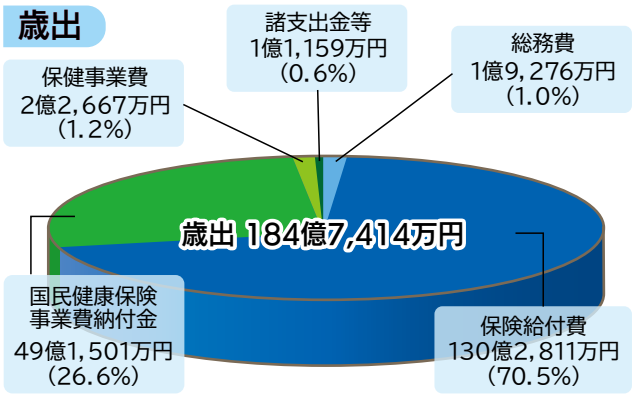
市ホームページ

国民健康保険特別会計決算

令和6年度の内容についてお知らせします。

問保険年金課　☎内線276





新しい道の駅の名称を募集します！

地産地消とにぎわいの創出を図るため、「食×子ども」を施設設計の方針とした地域活性化の拠点となる新しい「道の駅」の整備を進めています。

令和10年3月の開業に向け、国土交通省に登録する名称を募集します。

応募資格　どなたでも　**応募期間**　12/1(月)～R8.1/9(金)

応募方法　応募用紙またはインターネットにより応募できます。
詳しくは、右記コードからご確認ください。

発　表　市報、市ホームページ

問道の駅整備室　☎内線532

市ホームページ


外観イメージ

12月3日～9日は障害者週間です　～ともに生き、ともに暮らせるまちづくり～

障害者差別解消法とは

行政機関や民間事業者などに、障害のある人に対して、正当な理由なく障害を理由として差別することを禁止しています。また、障害のある人から、社会の中にある障壁となるものを取り除くために、何らかの配慮を求める意思表示があったときは、負担のない範囲で対応する「合理的配慮の提供」が義務化されています。

問障害福祉課
☎内線287

「ヘルプマーク」をご存じですか？

義足や人工関節を使用している人、心臓などの内部障害や難病の人など、外見からは分からなくても援助や配慮を必要としている人に配布しています。ヘルプマークを付けている人を見かけたら、配慮をお願いします。



配布場所　障害福祉課、各行政センター福祉担当係

問障害福祉課　☎内線287

「まちを愛し、地域を愛し、人を愛する心をめざして」

12月4日～10日は「人権週間」、「人権尊重社会をめざす県民運動強調週間」、12月10日～16日は「北朝鮮人権侵害問題啓発週間」です。これらの週間を機に人権問題への認識を深めましょう。人権ポスター、標語の入賞作品、保育所（江南、銀座、籠原）の人権啓発作品の展示を12月4日（木）8時30分～10日（水）12時まで、本庁舎1階ホール北側で行います。

問人権政策課　☎内線262　問社会教育課　☎内線388

人権標語

- 思いやり 言葉や文化を 超えてゆく　熊谷西小学校 5年 大木 愛斗 さん
- やさしさで 未来を変える その行動　玉井小学校 5年 篠塚 美桜 さん
- 多様性 認めてつくる 社会の輪　久下小学校 5年 道山 敢太 さん
- みとめあい えがおあふれる あかるい社会　桜木小学校 5年 伊藤 蓮 さん
- 軽いノリ 相手の心は 深いキズ　籠原小学校 5年 加藤 瑛望 さん
- みんなの色 からかい混ざると 黒だけど 認め合ったら 虹色になる　妻沼小学校 5年 長谷川 駿 さん
- ちがうこと 受け入れる気持ち ぼくの一歩　江南北小学校 5年 鎌本 悠大 さん

人権ポスター



熊谷西小学校　6年
大沼 奈央 さん



石原小学校　6年
酒井 萌瑠奈 さん



桜木小学校　6年
髙橋 ひかり さん



江南北小学校　6年
篠崎 凱里 さん



桜木小学校　6年　齋藤 灯 さん



熊谷西小学校　6年　都丸 義久 さん



玉井小学校　6年　常木 由良 さん

ハートフルセミナー（人権問題研修会・指導者養成講座）

とき	内容	講師
R8.1/20(火)	外国人の人権	未定
1/27(火)	暮らしの中の人権 ～同和問題とは～	県 人権・男女共同参画課 奥木 幹夫 氏
2/7(土)	木久蔵流 ～笑うが一番～ 笑いを通じて人権を考える	落語家 林家 木久蔵 氏

※1回だけの受講可

いずれも13:30～15:15（受付開始12:30）
江南総合文化会館ピピア
定各700人（先着順）※手話通訳あり
申右記コードから
問社会教育課
☎内線388、048-525-9330（FAX）

市ホームページ

熊谷市文化功労者

熊谷市教育委員会表彰規程に基づき、熊谷市文化功労者の表彰式が大里生涯学習センター「あすねっと」で行われ、次の方が表彰されました。

問社会教育課　内線394



野原 晃氏（78歳）

氏は、半世紀を超える長きにわたり、常に人間尊重の理念をもって教育一筋に多大な功績を残されました。

市内中学校の校長として、常に生徒主体の活気と魅力のあふれる学校経営を行うとともに、二学期制の先行実施などにより県内はもとより県内外の教育行政に大きな影響を与えました。

19有余年の教育長の在任中は、「熊谷の子どもたちは、これができます！『4つの実践』と『3減運動』」を提唱し、その考え方を浸透させ、この取組は平成28年度に文部科学大臣賞を受賞しました。

学校教育においては、英語科の授業における「ラウンドシステム」の考え方を全教科で導入し、「知力・徳力・体力のバランスのとれた学力日本一」を実現しました。

社会教育の分野では、妻沼聖天山歓喜院聖天堂の国宝指定に向けた活動などを通じて、文化財の保護・継承に貢献されました。また、スポーツ・文化村「くまぴあ」を整備し、あらゆる世代の市民が文化やスポーツに親しめる生涯学習の場を提供したほか、人権教育にも力を尽くされるなど、多岐にわたり指導力を発揮されました。

さらに、埼玉県都市教育長協議会会長に就任し県内の教育長のリーダーとしてご活躍され、関東地区および全国都市教育長協議会の要職、文部科学省のいじめ防止基本方針策定協議会委員なども歴任し、平成26年には文部科学大臣より地方教育行政功労者表彰を受けられました。

このように、氏が卓越した指導力により、広く教育の発展充実に貢献された功績は誠に顕著であります。



坂田 博氏（93歳）

氏は、50年もの長きにわたり、9校の小・中学校、高等学校の学校薬剤師を務められました。また、学校給食センターの学校薬剤師としてもご活躍され、学校の環境衛生の維持・改善に大きく尽力されました。

各校で学校保健計画の策定に参画し、薬剤師としての専門的立場から指導助言を行い、学校保健活動に積極的に取り組まれたほか、学校衛生環境に関する検査や、改善のためのアドバイスや指導をまとめた「学校環境衛生のしおり」を作成されました。このしおりは、今日でも学校薬剤師へ配布され活用されています。

「薬と健康の週間」では、薬に関する知識を啓発するパンフレットの配布や相談会を実施しました。また、高齢者向けの服薬指導講習会も開催し、薬の誤飲防止に力を尽くされました。

昭和60年には、熊谷市薬剤師会会長、平成12年には社団法人埼玉県薬剤師会副会長に就任し、地域の保健衛生の向上に多大な貢献をされました。

さらに、埼玉県薬物乱用防止対策推進本部委員として、県と共同で、「薬物乱用防止啓発ポスターコンクール」を実施し、選考委員を務めるなど薬物乱用防止活動にも寄与されました。

こうした長年の功績が認められ、平成12年には文部科学大臣学校保健功労表彰、同23年には薬事功労者厚生労働大臣表彰を受賞、同27年には旭日双光章の栄誉に浴されています。

このように、保健と公衆衛生の向上、社会福祉の増進に寄与された功績は誠に顕著であります。



赤沼 昇氏（76歳）

氏は、公益財団法人熊谷市スポーツ協会の要職を務め、一貫してスポーツの普及発展に貢献されました。

熊谷さくらマラソン大会では第1回から役員として参加し、現在も実行委員会副会長として大会運営に尽力され、令和元年には全国ランニング大会100選に選ばれる人気大会となりました。加えて、熊谷市陸上競技協会副会長として、全国から長距離ランナーが集う「チャレンジ熊谷」や「熊谷市春季陸上記録会」などを公認大会として開催し、陸上競技の普及発展に寄与されています。

彩の国まごころ国体では、熊谷市実行委員会専門委員として、小学生の鼓笛隊や中学生のマスゲームの指導など、開会式閉会式の進行に努められました。

また、熊谷市中学校体育連盟会長、部活動地域連携検討委員会委員として、部活動や大会の在り方について検討し、時代の変化に対応しながら生徒にとり望ましい部活動を目指して実証を進めておられます。

さらに、公益財団法人熊谷市スポーツ協会専務理事として、幅広い世代が気軽にスポーツに参加できるよう、21種目40のスポーツ教室を開催し、生涯にわたるスポーツ環境の充実を図りました。

長年の功績により、令和7年2月に埼玉県スポーツ協会100周年記念表彰、同年10月には文部科学大臣表彰を受賞されております。

このように、スポーツの振興、発展に尽力し、市民の健全な心身の発達と、健康で明るい市民生活の実現に寄与された功績は誠に顕著であります。